

テーマ「保護者の方への国語教え方講座」

■どうしても…

「子どもに国語を教えてもどうしても…」
ご入会の面談の時に、ご自宅で保護者の方が国語を教えていることが伝えられます。ただ、なかなかうまく教えられないから当教室の門をたたいてくれるようです。

問題集、参考書が数多く出版され、時間さえあれば、家でも十分に勉強はできます。ご自宅で保護者様が教えることもできるとも言えるでしょう。ただし、そうだからと言って、塾と同じような指導ができるとは必ずしも言えません。塾で出会う児童・生徒の数とご自宅のご自身のお子さんだけで数の上で圧倒的な差があるのです。

■② 字面だけ追わせる

**「読めば分かるでしょ！」で
分かれば苦労はしません**

「答えは文章の中にある」という言葉への精査がないままに、問いの答えを文章からひたすら探させる教え方は保護者だけではなく、国語指導者にも見られます。「日本語だから読めば分かる」は大きな誤解です。文章の内容を追うことと、文章の中心を捉えることは別物です。問いで求められていることの多くは文章の中心と関わる部分ですので、字面だけでは対応できません。単に「宝探し」を助長するだけです。繰り返しになりますが、文章の中心をいっしょに考えさせる、いっしょに考えることが大切です。

■国語を教える注意点

- ① 問いの解き方だけ教える
- ② 字面だけ追わせる
- ③ 記述の解答の扱い方

今回は保護者の方がご自身のお子さんに国語を教えるときに気をつけるべきポイントをお伝えいたします。当教室に訪れる保護者の方から伺った話を参考にしながら、実際にしてしまいがちな教え方をまとめてみました。お子さんが国語に消極的になる理由が案外今回の話の中に隠れているのではないのでしょうか。見直しのきっかけになれば幸いです。

■③ 記述の解答の扱い方

大人が作った記述解答を、子どもが書けるはずがありません

選択問題、書き抜き問題であれば、解答は1つに決まりますので、正誤判断はつきやすいのですが、記述問題の解答となると少々戸惑ってしまうではありませんか。戸惑いから模範通りに書かなければ正解ではないと考え、その通りになるまでお子さんを追い詰めてしまうこともあるかもしれません。

問題集や模擬試験の記述問題の解答は大人目線で書かれています。子どもがどこまでそれに近づけるのか、あるいは近づいているのかは、ある程度のゆとりをもった判断が必要です。「だいたい合っていれば○」ぐらいの考えで採点してみてもいいかがでしょうか。

■① 問いの解き方だけ教える

解き方で「読解力」はつきません

不思議な話ですが、巷の「読解力」という言葉の意味と、保護者の考える「読解力」には大きな隔たりがあります。巷の「読解力」とは文章を読んで理解できる力を指しているのに対し、保護者は「文章問題が解ける力」を「読解力」と置き換える傾向があります。そこで「問いが解ければ読解力があることになる」という誤解が生じるのです。真に文章を読んで分かる力をつけるというのであれば、文章を読むこと、文章の内容を確かめることに時間を費やして教える必要があります。解き方では「読解力」はつきません。

■まとめ

**難しければ、国語を教えるプロ
にお願いして下さい！**

- 1. 文章の内容を教えることに時間をかける！
- 2. 文章から自分の言葉で考えさせる！
- 3. ゆとりある答え合わせをする！

ご自宅での学習の場合、問いに対してどう考えるかを中心に教えることとなりますが、それはあくまでその問いだけに対するアプローチに過ぎません。どんな文章に対しても、高い精度での文章の読みと、慎重な解答作業ができるように国語を教えなければいけません。難しいようでしたら、プロに一度ご相談されてはいかがでしょうか。